

計算関係書類に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

継続事業の前提に係る疑義は発生しておりません。

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券については、償却原価法(定額法)を採用している。

(2) 固定資産の減価償却の方法

機械及び装置の減価償却は、定額法による。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式による。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

| 科 目 | 前期末残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 当期末残高 |
|--------|---------------|------------|------------|---------------|
| 基本財産 | | | | |
| 投資有価証券 | 2,721,356,583 | 39,500 | | 2,721,396,083 |
| 定期預金 | 3,898,250 | 0 | 0 | 3,898,250 |
| 小 計 | 2,725,254,833 | 39,500 | 0 | 2,725,294,333 |
| 特定資産 | | | | |
| 機械準備資産 | 34,870,000 | 10,000,000 | | 44,870,000 |
| 機械及び装置 | 59,801,552 | | 19,301,549 | 40,500,003 |
| 小 計 | 94,671,552 | 10,000,000 | 19,301,549 | 85,370,003 |
| 合 計 | 2,819,926,385 | 10,039,500 | 19,301,549 | 2,810,664,336 |

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

| 科 目 | 当期末残高 | (うち指定正味財産 からの充当額) | (うち一般正味財産 からの充当額) | (うち負債に 対応する額) |
|--------|---------------|----------------------|----------------------|------------------|
| 基本財産 | | | | |
| 投資有価証券 | 2,721,396,083 | (2,715,660,133) | (5,735,950) | (0) |
| 定期預金 | 3,898,250 | (2,797,950) | (1,100,300) | (0) |
| 小 計 | 2,725,294,333 | (2,718,458,083) | (6,836,250) | 0 |
| 特定資産 | | | | |
| 機械準備資産 | 44,870,000 | (0) | (44,870,000) | (0) |
| 機械及び装置 | 40,500,003 | (18,066,666) | (22,433,337) | (0) |
| 小 計 | 85,370,003 | (18,066,666) | (67,303,337) | 0 |
| 合 計 | 2,810,664,336 | (2,736,524,749) | (74,139,587) | 0 |

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

| 科 目 | 帳簿価額 | 時 価 | 評価損益 |
|----------|---------------|---------------|------------|
| 地方債等 13件 | 2,721,396,083 | 2,755,843,396 | 34,447,313 |

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

| 補助金等の名称 | 交付者 | 前期末残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 当期末残高 | 貸借対照表上の記載区分 |
|--------------|-----|------------|-------|-----------|------------|-------------|
| 次世代林業基盤づくり事業 | 愛知県 | 24,856,586 | | 6,789,920 | 18,066,666 | 指定正味財産 |

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

| 内 容 | 金 額 |
|---------------------------|------------|
| 経常収益への振替額 | |
| 事業の用に供する振替額 : 基本財産受取利息 | 39,729,922 |
| 償却原価法による振替額 : 基本財産の内訳振替 | 180,000 |
| 減価償却費計上による振替額 : 愛知県補助金振替額 | 6,671,220 |
| 経常外収益への振替額 | |
| 減価償却費計上による振替額 : 愛知県補助金振替額 | 118,700 |
| 合 計 | 46,699,842 |

8. その他

(1) 金融商品に対する取組方針

当基金は、公益目的事業の財源の相当部分を運用益によって賄うため、債券、株式、投資信託により資産運用する。なお、デリバティブ取引は行わない方針である。

(2) 金融商品の内容及びリスク

投資有価証券は、債権、株式、投資信託であり、発行体の信用リスク、市場価格の変動リスクにさらされている。

(3) 金融商品のリスクに係る管理体制

① 資産運用規程に基づく取引

金融商品の取引は、当基金の基本財産の管理運用要領に基づき行う。

② 信用リスクの管理

債券については、発行体の状況を定期的に把握し、理事会に報告する。

③ 市場リスクの管理

株式については、時価を定期的に把握し、理事会に報告する。

投資信託については、関連する市場の動向を把握し、運用状況を理事会に報告する。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産については、計算関係書類の注記に記載のとおりである。